

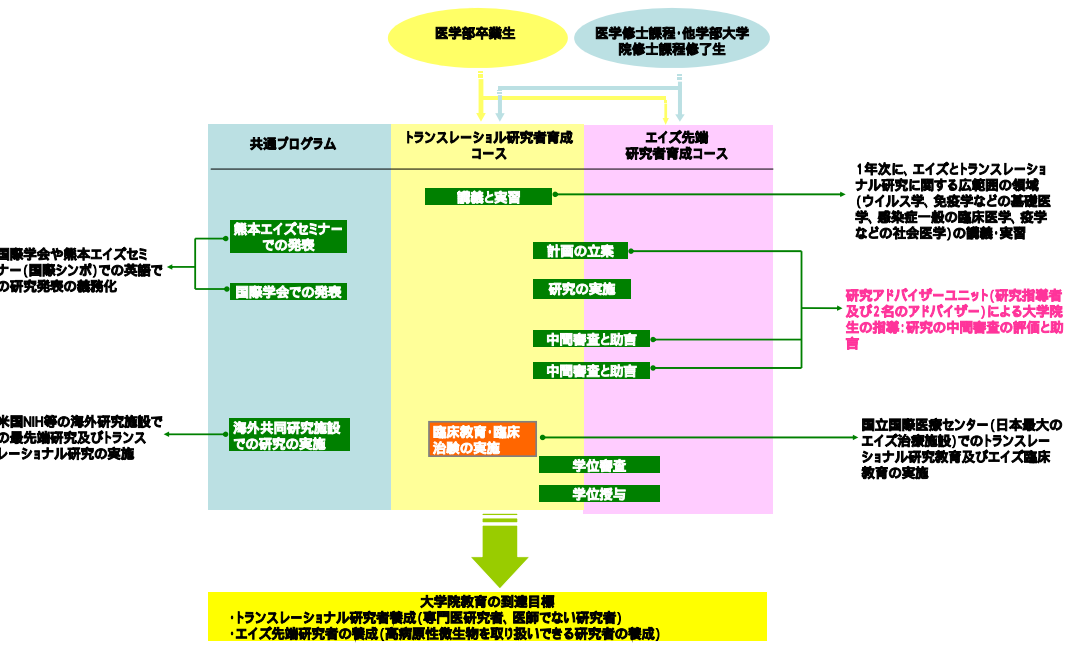
熊本大学大学院医学教育部 魅力ある大学院教育イニシアチブ 「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」

プログラム概要



生存しているHIV-1(エイズウイルス)感染者が世界で4000万人以上になり、毎年300万人以上が死亡している。国内においても、既にHIV-1感染者は1万人以上に達しており、感染の急速な増大が危惧されている。このような状況下で、基礎研究成果を基にエイズの治療薬や治療法の開発まで行うトランスレーショナル研究の専門家の育成が、エイズを制圧するために急務とされる。そこで最もエイズの研究教育実績がある熊本大学医学教育部に、「エイズ制圧を目指す研究者養成コース」を新設し、国内外から大学院学生を受け入れて組織的な大学院教育を実施し、トランスレーショナル研究を推進する能力を有した研究者・エイズ専門医の育成、さらにHIV-1などの高病原性微生物の取り扱う能力を備えた研究者の育成を行う。

「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」の特色



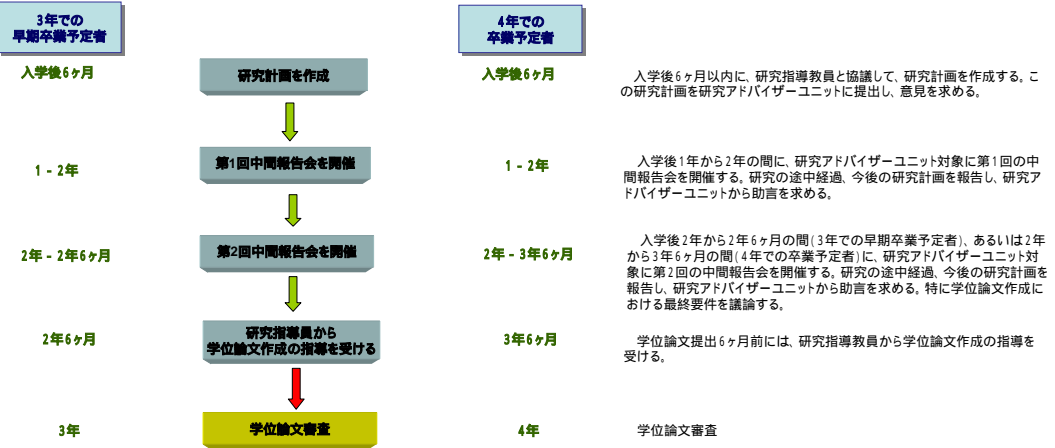
熊本大学医学研究科(教育部)のエイズ研究者養成の歴史

熊本大学は、多くの感染症研究分野の逸材を世の中に送り出してきた。高月教授、日沼教授らによるATL(成人T細胞白血病)の発見とその原因ウイルスであるヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV-1)の同定の研究は、この病気の撲滅に向け大きな貢献をしたことは世界的に知られている。またエイズの研究では、世界で最初の3種の抗HIV剤の開発が満屋教授によりされ、1998年には国内の大学では唯一のエイズを研究する学内共同利用施設であるエイズ学研究所センターを設立し、エイズ研究と大学院教育に力を入れてきた。その結果、現在では熊本大学医学教育部は国内で最大のエイズ研究者が在籍する大学院組織となった。現在日本国内で最も活躍しているエイズ研究者(国立感染症研究所エイズセンター長、京都大学ウイルス研究所エイズ研究施設教授(2名)、熊本大学医学薬学研究所及びエイズ学研究所センター教授(3名))を輩出し、日本のエイズ研究者育成の中心的役割を果たしてきた。これは、博士号取得条件としてピアレビューがある国際誌に論文が採択されていることを課し、公開による厳しい審査を行ってきた成果といえる。平成14年より医学修士課程を開設し、医学部以外の学部の卒業生を対象とした研究者育成教育を開始し、さらに平成15年度からは新たな大学院組織である医学教育部を設立、4専攻制による博士課程教育を開始し、大学院教育の改善に取り組んできた。

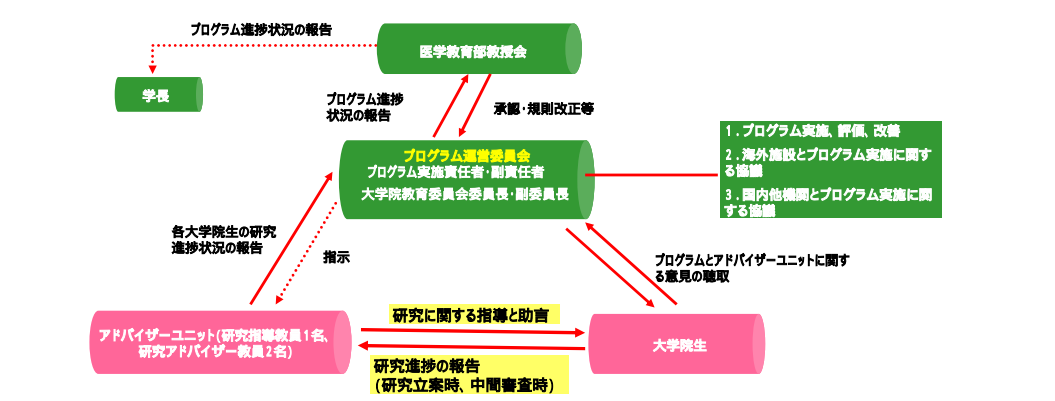
エイズ研究をめざす大学院生の現状

現在熊本大学医学教育部には、エイズの研究者を目指す博士課程学生が26名、修士課程学生が15名在学している。これらの学生の指導は、主に指導教官を中心とした個別指導の体制がとられている。日本学術振興会の特別研究員に採用されているものが既に2名おり、また海外の学会で表彰されたもの(13th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections 2006) Young Investigator Award: 現博士課程2年生、AIDS Vaccine 2004 Conference: Travel Grant: 現博士課程3年生)などもおり、その教育効果が一部では出ていると考えられる。しかしながら各研究室の教育体制の差は大きく、組織だった体系的教育の必要性が出てきた。

研究指導体制

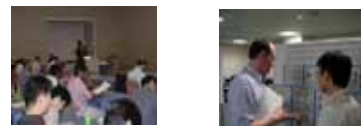


プログラム運営体制



熊本エイズセミナー(シンポジウム)の開催

毎年9月に熊本で、国内外の一流の研究者を招聘し開催。多くの大学院生が参加し、自らの研究発表をおこなう。国内外の一流の研究者からの助言などを得られる。熊本大学以外の大学院生、若手研究者も多数参加。



大学院博士課程学生の海外発表など支援

魅力ある大学院教育イニシアチブ「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」では、プログラム担当教員が所属する研究室の博士課程学生の海外学会等での発表を支援します。



熊本大学韓国フォーラム2006

カリキュラム

	授業科目	単位数		学年	備考
		必修	選択		
特論	エイズ特論I	2		1-2	エイズに関するウイルス学、免疫学などの講義
	エイズ特論II	2		1-2	エイズに関する臨床医学の講義
	エイズ特論III	2		1-2	エイズに関する社会医学・疫学に関する講義
	トランスレーショナル研究特論	2*	2	1	前臨床研究、臨床試験、及びトランスレーショナル研究に関する法律に関する研究
	臨床疫学特論		2(6)	1-2	臨床疫学専攻の各分野の講義
演習	病態制御学特論		2(6)	1-2	病態制御学専攻の各分野の講義
	エイズ学特別演習I	2	2	1-2	博士課程1・2年生の熊本エイズセミナーへの参加
	エイズ学特別演習II	2	2	3-4	博士課程3・4年生の発表を伴う熊本エイズセミナーへの参加
	エイズ学演習I		2	1	国立国際医療センターでおこなわれるエイズの臨床を見学する実習
	エイズ学演習II		4(6)	1-4	各研究室での抄読会(英語の論文紹介)
実習	エイズ学演習III		4	1-4	大学院セミナーおよび各研究室での外部からの講師によるセミナー
	トランスレーショナル研究特別演習	4*	4	1もしくは2	国立国際医療センター及び熊本大学病院でのトランスレーショナル研究に関する総合的な演習
	エイズ学実習I		2	1-2	HIV-1に関するウイルス学実習
	エイズ学実習II		2	1-2	HIV-1に関する疫学実習
	エイズ学実習III		2	1-2	HIV-1に関する免疫学実習
研究	エイズ学研究		6	1-4	指導教員の研究室での研究と学位論文作成指導
	エイズ学特別研究		6	1-4	海外の研究機関での研究

単位数の合計: 必修12(24)
選択36(48)